

2016 vol.1

新風

題字 薬師寺 高田好胤師

CHANGE
NOW

～ “今” を生きる、未来を生きる～

生駒商工会議所青年部
平成27年度 会長

奈良商工会議所青年部
平成27年度 会長

奈良青年会議所
第57代 理事長

対談・今柳剛 × 平方貴之 × 中本政容



一般社団法人奈良青年会議所
<http://www.nara-jc.or.jp>



対談

生駒商工会議所青年部
平成27年度 会長

今柳 剛



奈良商工会議所青年部
平成27年度 会長

平方貴之



奈良青年会議所
第57代 理事長

中本政容



『視点を变える』

中本 「なぜ (Why)」と考える事が視点を变える大切な事の一つだと思っています。

平方 奈良YEGもそれをポイントの一つだと思っています。

中本 「あれはダメ、これはダメ」という事が多い最近ですが、では「なぜ? (Why?)」だめなの?」と尋ねたら「理由はわからない」という返答が多いと感じます。

中本 私は正副役員を筆頭に理事の皆さんには「なぜ? (Why?)」を意識して、その理由をしつかりと認識する事で後輩にきちんとした情報を伝えていく事ができ、本当の意味での伝統や志を受け継ぎ変えていく事だと思っています。本質を知り、その上で視点を变えて自然と出てくる発想の変化を大事にしていきたいと思っています。今年は、そこを意識してメンバーに向けて発信しています。

中本 1月12日に行いました1月第二例会「新年会」で奈良女子大学書道部の方に『CHANGE NOW』と習字で書いてもらいましたが、皆さん見ていただいていたでしょうか? CHANGEの「C」がドラゴンの顔のように伸びやかにNOWの「w」が尻尾のように上がっていました。これは事前に練習されているところを訪問した時に硬い感じで書かれていたので「もっと自由に書いて!」とお願いをしたら、のびやかになりました。大学生の若い発想力を発信していただきたかったので一声掛けたら大きく違ったものが出て上がりました。

私たちは今、そういう自由さというものが失われてきているのかなあ・・・と感じています。きちんとしたルールや意味を知る事は、逆にそれを变えるきっかけにもなるという事を実践していかなければ今の時代に合った明るい豊かな社会への実現には繋がらないと思います。

今柳 私も1月の新年会に参加させていただいており、奈良女子大書道部の躍動感のある書初めには元気をいただきました。また、そこに至る過程では中本理事長からの視点を变えたアドバイスも効果的であったと思います。我々YEGは商売の色を全面的に出していける団体で、JCさんよりはかなり自由な所があります。奉仕活動も行いますが収益性のある事業を実施する事もあります。奈良JCはそのあたりはできないですよね?

中本 そうですね。儲けるという概念はないです。私が目指す奈良JCの事業像は、先程の新年会の様に若い世代を

巻き込んで事業を展開していくなかでお互いが奉仕の心を持って、楽しく文化祭を開催するかの様に参加していただき、若い方達に事業の作り方などを学んでもらい、この様な奉仕の形を通じて市民の方々に民間主導のまちづくりを広めてもらう事が重要な青年会議所の運動であり、それが街の収益を上げる事につながる『視点』だと私自身考えております。

今柳 生駒YEGの活動エリアである生駒市は大阪、京都、奈良に非常にアクセスの良い地域で住宅都市として栄えているのですが、今日の会場でもある高山茶筌や商売の神様が奉られている宝山寺など様々な魅力があります。しかし残念ながらその部分にまだまだ光があたっていないのも現状です。生駒の人は大阪や京都で遊んで食べて家には寝に帰るだけのイメージを持った方々も沢山おられます。しかし、YEGでイベントをすると多くの市民の皆さんが集まります。まだまだ『視点』を変えて事業に取り組みばもっと生駒の街の魅力を引き出す事業ができると考えています。

中本 私も同じような視点です。住宅都市としての施策など何か考えていかなければならないと考えます。本年度理事長所信『転石苔を生ぜず』という諺について書きましたが、これは日本では「同じ場所にとどまらない石には、苔も生えない」転じて「職を転々とする者は成功できない」という意味で使われてきました。

しかし、これがアメリカでは「活動的な人は、能力を錆びつかせない」という全く反対の意味で使われています。同じ諺でも地域、国民性のもつ『視点』によってこの様に違いが生まれるのは注目すべき点であります。そして、ついに近年の日本の辞書にこのアメリカ的解釈が記載されました。次世代を担うリーダー育成を目指す我々は、古来からの良き日本の考え、教えを守りながらも時代や社会背景の急激な変化がある情勢の中で狭い視野に囚われることなく柔軟な発想と大胆な角度から物事を捉える『視点』が必要だと考えます。



『時を意識する』

中本 今回『時を意識する』というのを一つの題材としており、いろいろと制度が変わってきている中で変えていかないとダメ、自分たちが変わらなないとダメかなと思うんです。でも国からこうしろと言われたからやるのではなく、自分達が率先して提言し、こういう風にしていきたい、したい未来を作っていくか、駄目だと思えます。この事について面白いなと思った話が携帯電話を持つ事になって逆に時間が失われているんじゃないかと思う事があるんです。例えば昔の「9時に近鉄奈良駅の行基さん前に集合」という情報が、今は「9時頃近鉄奈良駅あたりに集合」と曖昧になっている事があるませんか？これは携帯電話が行き渡った結果、遅れても電話で取り合える。詳しい場所は、その場に行つて電話を掛ければいいや。などと便利になった故に曖昧な情報でも待ち合わせができるようになったと思います。

一昔であれば一度約束をしたら、その時間にその場所に行かないと会うことができなかつた。だから早めに行つたり正確にやり取りをしていた覚えがあります。現状この便利さの為、もしかすると自分のそして人の時間を失わせてるかもしれないと感じるのです。ただし、今携帯電話を持たないという選択肢はありません。なので現在のこの状況をきちんと理解して便利さの上に気づきをおかなければならない事を我々は愚直に実践するべきだと思います。そんな思いを込めて想いの伝え方や時間の伝え方が変わってきていると思ひこの三本柱を掲げました。

歴史や文化、受け継いできているもの、あるいは受け継いできているけれども、時代の背景に沿って変えていかなければいけないものなど、お話を頂ければと思います。
今柳 生駒YEGは青年部が発足して30年が経過し昨年の6月には生駒YEG30周年記念式典を開催しました。また記念事業の一つとして市民の方々にもご参加いただき講演会を開催しました。講師には生駒市出身の藤井聡先生をお招きして生駒30年の歴史を振り返りました。まさに「時を意識する」という部分では我々生駒YEGにとつては30周年の式典・事業は生駒の街、生駒YEGの歴史を



振り返る良いチャンスとなりました。最近では正直なところ毎年同じような事業が続いておりワンパターン化している事業も多くあります。予算が無いから人が少ないから事業ができないのではなく、お金のかからない事業や収益を上げて継続できる事業などを構築していくのも重要になると考えます。

補助金と会費と協賛金だけに頼っている事業はどうしても限界があると思えます。

奈良YEGは今年度で38年目を迎えるのですが、35周年の記念事業として「せんとくんエアードーム」を作りましていろんなイベント等に有料で貸出しをしています。制作費が回収できればその後は収益事業として確立することができそうです。時を意識し、時代の流れを考え、補助金と協賛金に頼らない方法を今後は考えていかなければならないと思います。

今柳 YEGとしては今そういう方向ですね



『想いを伝える』

今柳 「想いを伝える」といつても色々な想いや伝える方法があるとおもいますが？例えばどういうことですか？
中本 私が思っているのは、今年公職選挙法が改正されて18歳以上からの投票権が認められたということで、実際のこの18歳から20歳の子たちに対して僕たち若い世代の代表でもある青年経済人がそこに何かアプローチしなければ僕たちがいっている意味があるのかな？と思うんです。だから、18歳から25歳未満までの若者に対してこの7月に行われるだろう、参議院選挙で、何かアプローチをかけていかなければならないなというのが今年の私の大きな目標でもあるわけです。

そこで、18歳から25歳までの若い方たちに集まってもらい、情報がたくさんあるなかで、僕たちが思う情報をきちっと収集して、精査してひも解いて、そして想いを伝える。というような、事業をしていくことで、JCが自己満足団体とか言われないためにもきちんと奉仕団体としてのような奉仕ができたか、若い方たちの意識を変えられるような奉仕ができたのか？ターゲットを決めてやっていきたい、というのが今年の目標としてあります。

今柳 それについては難しいところもありますよね。一つ間違えると政教活動になってしまうところもありますもんね。JCさんとYEGでは想いや目標は同じでもアプローチの方法に大きな違いがありますしね。

中本 そうですね。それは本当に気を付けないといけないところですね。奈良ではいろんな事業が立ち上がっているなかで、「一本化されていない！」というご意見も、県や市からいただいていますのでそれを実現して、1年を通して奈良をPRできる事業になれば、奈良という地が活性化化する



ことに繋がっていくのかなと思っております。

平方 奈良YEGとしては、過去5回にわたり平城宮跡朱雀門前広場で「なら奈良まつり」という事業を行政の協力も得て開催させていただいており、年を経るごとに来場者数も増え地域に根ざしたまつりとして定着してきているのですが、将来にわたり継続していくためには補助金や協賛金頼みの運営ではやはり限界があるので変えていかなければならぬと思っております。

また、商工会議所は地域経済の発展が目的なので、青年部としてもメンバーの事業所の発展を通して地域経済の活性化に貢献していくというのが一番重要な活動でありそのための事業活動を行っていく必要があると考えております。会議や飲み会やイベントの手伝いばかりでは、もちろんそれらも重要な活動の一つではありますが、それだけでは入会しているメリットがないので、やはり商工会議所青年部に入ることによって経営者としての資質の向上が図れ、メンバー間のビジネスネットワークが構築でき、それが各メンバーの事業所の発展に繋がるといって、そういう会員メリットを創り上げていかないと商工会議所青年部の存在価値もないと思いますし組織としての発展もないと思いますので、それに向けた活動を強化し、伝えていきたいという思いはあります。

今年度の新たな試みとして、単年度制の委員会というのはJCさんも同じだと思っておりますが、それとは別に同業種・関連業種ごとに業種別部会というのを立ち上げました。単年度制ではない継続性のある部会を立ち上げること、同業種・関連業種の

メンバー間の繋がりを深めていただきビジネスネットワークの構築に繋がっていただくとともに、それぞれの業種の抱える地域的な課題について専門的な見地から情報交換や奥の深い議論をしていただければ従来からの委員会では難しかった一定の専門性が求められるような事業についての受け皿にもなります。また、親会や行政に対する提言活動にも将来的には繋がっていければと考えており、そのような取り組みを通じて伝えていける様に今年度は行っております。

中本 お互いに地域の発展の為に邁進して参りましょう。

理事紹介

直前理事長
倍巖 智洋



理事長
中本 政容



外部監事
増尾 朗



監事
熊木 一生



監事
清水 宗一郎



専務理事
田遠 貴行



常務理事
萩原 敏明



副理事長
西田 新



副理事長
堀川 雅嗣



指導力開発室
室長
森 隆士



LOM PR 室
室長
見山 高幸



指導力開発室

アカデミー委員会
委員長
黒 浩嘉



会員交流委員会
委員長
沖津 繁則



会員資質向上委員会
委員長
瀧口 佳徳



LOM PR 室

若者の未来委員会
委員長
岩本 悠佑



PR 戦略委員会
委員長
佐藤 伊左男



会員拡大委員会
委員長
森田 洋平



総務室

総務委員会
委員長
高林 昇



事務局
局長
三岡 祥之



財政局
局長
上中 一成



理事
坂田 智哉



理事
加藤 陽興



理事
松井 和弘



Ⅲ 新入会員紹介 Ⅲ



やまがみ ゆうすけ
山上 侑佐

1985年5月21日生
株式会社 山上組

奈良市の富雄にある(株)山上組で働いています。山上侑佐と申します。

総合建設業ですので、土木・建築について何でも聞いてください。JCは経験しないと分からない所だと聞いたので行事やイベント事には出来るだけ参加し、経験していこうと思います。

よろしくお願い致します。



2016年度出向者

公益社団法人 日本青年会議所 平成の防人委員会



委員長
西田 新



総括幹事
加藤 陽興

近畿地区 奈良ブロック協議会



会長
倍巖 智洋



総務委員会
委員長
坂田 智哉



財政局
委員長
松井 和弘

私たちと一緒に奈良のまちを輝く未来の奈良を創りませんか？

会員募集中



ならごころ

思いやりならごころ 育成事業～思いやり溢れる人～
羽ばたけならごころ 発信事業～奈良から世界に向けて～
他生の緑ならごころ 醸成事業～他生の緑が広がるまち～

一般社団法人奈良青年会議所

年間例会紹介

1月7日

1月第一例会 入会式

1月12日

1月第二例会 新年会

1月29日

1月第三例会 企画例会

2月18日

2月第一例会 第82回総会

3月17日

3月第一例会 企画例会

4月16日

4月第一例会 まほろばざーる 2016

5月3日

天平祭

6月2日~6月5日

ASPAC 台湾(高雄)

7月7日

7月第一例会 入会式

7月9日

7月第二例会 地区大会 茨木

8月5日~8月14日

なら燈花会

8月第一例会 なら燈花会

9月11日

9月第一例会 ブロック大会 檀原

9月27日

9月第一例会 第83回総会

10月20日

10月第一例会 新旧企画例会

10月28日

10月第一例会 4JC合同例会

11月17日

11月第一例会 卒業生講師例会

12月12日

12月第一例会 卒業式・忘年会

WEBまほら(2016年度「まほら」第2号) 発刊のご案内

本年度「まほら」2号の発刊は、奈良青年会議所ホームページにて9月に配信を予定しております。

発刊の通知をご希望の方は、下記メールアドレスに空メールを送信してください。
ご登録いただきましたメールアドレス宛に、発刊時に通知メールを送信させていただきます。

発刊通知登録用メールアドレス
narajc.mahora@gmail.com

奈良青年会議所は

明るい豊かな社会の創造に向けて活動しています。

奈良青年会議所の活動はホームページやFacebookページでもご覧いただけます。

ホームページ ⇒ <http://www.nara-jc.or.jp>

Facebook ⇒ <http://facebook.com/narajc>



奈良青年会議所の活動に



で拡散お願いしますm(__)m

一般社団法人 奈良青年会議所 広報誌「まほら」2016 vol.1
2016年5月 発刊 通巻447号

発行：一般社団法人 奈良青年会議所

〒630-8213 奈良市登大路町36-2 商工会議所会館4F

TEL 0742-26-0112 FAX 0742-23-5519

URL <http://www.nara-jc.or.jp>

編集：PR戦略委員会 佐藤 伊左男(委員長) 新宅 香介(副委員長) 乾 規世(幹事)

大野 恵司 岡本憲二郎 中川賢太郎 西 弘真

藤井 伸行 堀田 雅行 松本 貴之

印刷：関西美術印刷株式会社

CHANGE NOW

～“今”を生きる、未来を生きる～

一般社団法人 奈良青年会議所
第57代理事長 中本 政容

Introduction はじめに

今、思い起こせば、2005年に生駒市で起業した私は、当時、ビジネスの荒波に揉まれ、壊れそうになっていました。そんな時、私を助けてくれたのが2008年に入会した奈良青年会議所です。「もしも入会していなければ、今の自分は存在していなかった」そう言いきれほどJCは心強い存在なのです。しかし、助けてくれたといっても、実際に誰かが手取り足取り具体的な形で助けてくれたわけではありません。多くの方々温かい言葉や行動で私に「大切な気づき」を与えてくれたことで、助けられたといった方が正しいかも知れません。青年会議所は、そんな輝きと魅力あふれる温かい人の集合体であり、お互いが刺激しあえる団体でもあります。

私は、この貴重な経験を自分の一生の宝として心に深く刻みつけ、感謝するとともに、その気づきから「視点を変える」「時を意識する」「想いを伝える」この3つを柱とした活動を推進します。そして、“今”という瞬間を価値ある時の積み重ねに変え、変化している今という時代の先頭を走る仲間と組織づくりを行い、輝く未来の奈良を創造してまいります。それが、私の考える「CHANGE NOW」です。

Angle 視点を变える

「転石苔を生ぜず(A rolling stone gathers no moss)」この言葉は「同じ場所にとどまらない石には、苔も生えない」という例えから「職業を転々とする人は成功できない」警句の意味として日本では使われてきました。しかし、アメリカでは「活動的な人は能力を錆びつかせない」という全く反対の意味で用いられていることをご存じでしょうか。これは、アメリカ人が「こけ」を綺麗なものとして認識していないこと由来します。一方、日本人にとって「こけ」は鑑賞の対象であり、命の象徴でありました。日本の国歌である君が代の歌詞の最後に「苔の生すまで」とあるのは、その心情を象徴する言葉でもあります。この様に、同じ諺が国民性や視点のとらえ方でまったく逆の意味で使われる事実は特に注目すべき点でもあります。またこの諺は近年の日本でも「活発に活動し続けている者は、いつまでも古くならない」というアメリカ的視点の意味で多く使われるようになり、辞書にも明示されるようになりました。これは、時代とともに社会背景や言葉のとらえ方が根底から変化し始めていることを暗示しています。

今こそ、我われ若いリーダーは、急激に変わりつつある

社会情勢の中で、既成概念を根底から見直すとともに、狭い視野に囚われることなく、柔軟な視点と発想を養い、大胆な角度から“今”を考察することが必要なのです。時と場合によってはじっくり腰を据える日本の発想がいい時もあるでしょうし、大胆に切り替えるアメリカ的発想が必要なものもあるでしょう。多様な視点で物事を考え尽くすとともに、そこに新たな発想を付け加えることで、時代の変化を的確にとらえ、“今”という瞬間が最高の時間に変化します。

Time 時を意識する

時間とは「神様が我われに与えてくださった限りある大切な財産」です。我われには、この財産を1分1秒も無駄にすることなく有効的に活用して、自らや周りの人、そして住んでいる地域や国をより豊かにする責任と信念が必要なのです。

この様に大きな可能性を秘めた財産を、最大限に引き出すために、我われは“今”という瞬間、瞬間、を地域で輝き続け、そして多くの皆さんにその志を発信し、伝えていかなければなりません。そこには、自らの時間のつかい方への自戒も含まれています。時を意識することで、同じ質と量の発信や議論が短時間で行うことが可能になり、より多くの運動を地域にも伝えることができます。人は歩くなど日々の生活の大半を意識せずに行動しているといわれています。この無意識の行動をできる限り意識的な行動に変換することで“今”を“深く洞察”する能力が向上します。つまり、瞬間である“今”という時の価値観を意識することで、考える力が増し、時間という財産さえ増やすことが可能なのです。

Public Relations 想いを伝える

Public Relations (PR)とは「ファンを集めるためのコミュニケーション活動」である。と、書かれた本を読んだことがあります。

いくらよい事業をしても人が集まらなければ、多くの人に想いを伝えることはできません。いくら崇高な理念を掲げていても、それが地域に根ざしていなければ大胆な変革をもたらす大きな原動力にはなりません。新たな視点と論点から考察することで青年会議所自体や運動や開催事業を多くの方々に伝えられる様な積極的なPRを行う必要があります。まずは、PRを戦略に行うためには、自らのことを知る必要があります。それは奈良青年会議所の現在の立ち位置を知ることです。“今”の奈良のまちは、どの様な地域で、奈良青年会議所はどの様な歴史を歩んできたのかなど、自らの組織のことを熟知するとともに、我われの活動基盤である地域が何を求めているのかについても知ることが大切です。

また、多種多様な価値観を持ったメンバー同士、その手法を共有するためには、お互いの価値観の違いを認め、知

識を共有しようとする意識と機会が必要となります。そのため、例会や事業の様におもてなしをすることで生まれる新たな価値基準の共有とともに、気楽に話し合えるサロンなどの時を共有することでできる揺るぎない信頼関係の創造なども重要となります。こうした「目的に向かう強い信念と共通点」を探るためのコミュニケーションの機会も多く作ることに、さらに強固な組織へと変化します。

CHANGE NOW 改革の時

青年会議所の目的は、明るい豊かな社会の実現です。まずは、先輩諸兄が築き上げてくださった伝統や、事業を組み立てるプロセス等を再度学び直し、それをメンバーで共有する必要があります。そこで、新たに我われのメンバーとなる新入会員には、自らが入会したJCという組織がどの様な団体なのかという正しい認識と知識をさらに深めるための基本的な土台や、奈良の歴史や文化、風習を知ること、現在の自分の立ち位置をきちんと理解してもらいます。そして、既存のメンバーも新入会員の時のような初心にかえり、さらなる意識統一を図ります。

また、一人ひとりの会員の資質を上げることで、奈良青年会議所の価値を高め、明るい豊かなまちの創造につながります。しかし、資質向上といっても色々あります。周囲からの見え方や見せ方などの立ち振る舞いから、素早い判断をする訓練や考えを的確で効率的にまとめる論理的な思考を養うものまで様々な資質が求められます。この様な多面的な意味での資質の向上を目標に、魅力ある青年になるためのプログラムを年間通じてメンバー全体で共有し学び育みます。また、その魅力あるプログラムをメンバーの身近なビジネスパーソンに発信、または共有することで、奈良青年会議所との双方向の交流と受発信にもつなげていきます。これにより、メンバーだけではなく奈良の地域の産業を担っている方々の資質の向上にも寄与し、地域全体の活性化と発展を促進させます。

さらに、地域の方々や協働する事業を活性化につなげるためには、意識や目的の統一も大切です。そのため、より多くの地域の人々に参加してもらう必要があります。新たな手段や魅力あるプレゼンテーションや広報戦略の手法を学び、年間通じて有効かつ効率的に想いを伝える具体的に実践的な運動を行います。

そして、運動をともに行いたいと思う同志が募る方法についても柔軟に考慮し、それを実行します。魅力あるところには、人が集まります。人が集まるところにはさらに人が集まり、さらに魅力的な組織に変化します。

また、今年は、日本の未来にとって、最大の変革の“とき”です。昨年には70年ぶりに公職選挙法が改正され18歳から選挙権を与えられました。このことにより全国で約240万人の若い有権者が増えます。つまり、18歳と19歳の若者が投票を行うことで、一定の主張を国家にすることが

できるようになります。また、昭和22年5月3日に施行され現在まで一度も改正をされていない日本国憲法の改憲議論も活発にはじまっています。これは、大きく国の形が変わることを意味しています。

この様な国家にとって大きな変革が起きている“今”という時を意識して「運動を進めなければなりません。ですが、情報は溢れかえり、何が正しくて何が間違っているのかさえ分からない時代になってきています。今、我われには、若い世代を取り巻く政治的、社会的影響の変化に敏感に対応し、青年世代を率先する者として若い世代を導く責任があります。そして、大量の情報を「色々な視点から熟慮を重ねて」「より多くの人々へ発信する」ことで、より若い世代にも目を向けた政治が行われることの礎となる運動を奈良の地より率先して行うことが求められています。もうすでに改革は始まっています。改革のイニシアチブを主導し未来を明るい豊かな社会へ導くのは我われ自身であるという新たな意識改革のムーブメントを湧き起こします。

さらに、このムーブメントを、奈良青年会議所の活動範囲全域に広げなければなりません。まずは、私自身が率先して、生まれ育った恩のある生駒市にて様々な行動を起こします。活動範囲の拡大や人脈を増やすとともに、それを未来にもつなげていける体制をつくり、奈良青年会議所における活動範囲全域での活性化へつなげる新たな元年とします。

Conclusion おわりに

人には過去と現在があり、そしてまだ見ぬ未来があります。

現在という瞬間の時を大切に生きてこそ輝く未来があると信じています。

私の好きな言葉に「過去も未来も存在せず、あるのは現在という瞬間だけだ」という名言があります。これは、戦争と平和という著書で知られるロシアの文豪トルストイの言葉です。これを私なりに解釈すれば、「過去も未来も、視点を変える発想だけでポジティブに変えることができる」となります。私たちの未来は、自分自身の柔軟な思考と揺るぎない志で必ず豊かなものになります。

「“今”この瞬間を輝け！そうすればおのずと理想の未来が創造される！」

この想いを胸に刻み、これからも謙虚な心と揺るぎのない信念を持って活動してゆくことを改めて心に誓います。

2016年度、先輩諸兄が積み重ねてこられた伝統と志をしっかりと受け継ぐとともに、新たな視点と柔軟かつ大胆な発想を養い新しい時代への価値観を共有させ“今”という最高の瞬間を全力で行動することで、輝く未来の奈良を創造いたします。